

あけましておめでと〜うございます
本年も地域福祉の推進のため
全力をあげます



「無縁社会」ではなく 「ご縁社会」を

鶴崎和宏会長（山崎町五十波）



昨年の流行語大賞トップ10の中に、「無縁社会」が入っていました。

深刻な世情の中、地域福祉分野には、様々な課題が山積しています。心寂しい「無縁社会」から、温かい心で繋がる「ご縁社会」づくりを目指して、役員一同精一杯頑張る所存です。

本年も社協活動へのご支援をどうかよろしく
お願い申し上げます。

地域コミュニティを考える

小椋清之助副会長（波賀町鹿伏）



少子高齢化が進む中、ひとり暮らし、二人暮らしの高齢者世帯が増え、自治が立ち行かない自治会が出来ている。

今こそ現状に合った地域コミュニティが必要と考える。私達社協がどれだけ支援出来るか。

「誰もが安心して暮らせる福祉社会」の実現に待ったなしの時が来ていると考えるのは、私だけでしょうか！

「無縁社会」ではない 宍粟市に

鎌田珠子理事（山崎町西鹿沢）



人と人のつながりや家族の絆が少なくなる「無縁社会」が、宍粟市でもじわじわと進行しているのではないだろうか。

地域での支え合いやつながりづくりを目指している社協活動を支援し、「無縁社会」という言葉を宍粟市では無縁なものとしたいものです。

地域で支え合う

包摂社会をめざして

村上ノリ理事（山崎町山田町）



5年先を見据えての宍粟の地域福祉の計画が策定中です。

昔は婦人会がボランティアを立ち上げるなど福祉の一翼を担ってきました。その組織も残念ながら解散。ますます過疎化、高齢化の進む地域福祉の担い手は？

無論老若男女問わず地域住民全員です。包摂社会を目指し、私たちもパワーアップしましょう。

カタチに!!

ぐ取り組みがいっそう求められている
スタートにあたり14名の理事が宍粟

効率的な社協運営を

段林 繁理事（二宮町生栖）



総額4億4千70万5千円、これが社協の一般会計収入予算額です。この財源をもって社協の事業全体をまかなっています。

「事業の選択と集中」が大変重要になってきます。皆さんのご意見も拝聴しながら、信頼される社協の発展を目指します。

近所、隣りで老々介護？

田路壽子理事（二宮町三方町）



22年前、一宮の給食サービス事業の開始で社協と出会い、私も高齢者夫婦のみ世帯の仲間入りをして、老々介護も目前かと思っています。

地域住民の支え合いのあり方も福祉に頼りきらず、近所、隣り、元氣な高齢者が、弱い人を支え、共に生きることが不可能だろうか、思う
昨今です。

小地域福祉活動こそ 福祉の原点

森本都規夫理事（波賀町谷）



隣同士から隣保へ、隣保から自治会へ、自治会から町へ、町から宍粟市へと助け合いの心が大きく育つこそ、「支え合い、ともに安心して暮らせるまちづくり」が見えてきます。社会福祉協議会はその推進役であり、小地域福祉活動はその原点となるものです。

市民各位には是非、ご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。